

2017年11月27日

AI技術の世界最高峰の国際学会であるNIPS2017に採択

学習データ量に応じて自動的に最適なモデルに変化する 教師無し機械学習技術を開発

【要旨】

パナソニック株式会社は、大量の学習データを収集することが困難なリアルな環境に適用が可能なAI技術の実現に向けて、学習データの量に応じて自動的に最適なモデルに変化する教師無し機械学習技術を開発しました。

この技術は当社のビジネスイノベーション本部 AIソリューションセンターの研究成果になります。この度、AI技術における世界最高峰の国際学会であるNIPS2017 (Neural Information Processing Systems)に採択されました。

【効果】

当社の主要事業領域である家電・住宅・自動車・B2Bソリューションの中には、大量のデータを集めることが難しいために、AI技術を十分に活用できていないケースも多数存在しています。

この課題に対して、本技術を適用することにより、これまで専門家の介入が必要であったチューニング(モデルの調整)プロセスを大幅に削減することができるため、AI技術の適用可能範囲を飛躍的に広げることが期待できます。

今後の展開としては、本技術の研究開発を更に加速することで、身近なIoT機器やシステムなどリアルな環境で使えるAI技術の実現に取り組んで参ります。

【備考】

本技術は、北海道大学大学院 情報科学研究科の有村博紀教授、喜田拓也准教授、ならびに東京大学大学院 新領域創成科学研究科の佐藤一誠講師との共同研究成果になります。

本技術の詳細については、2017年12月4日からアメリカ合衆国ロングビーチにて開催されるNIPS2017にて発表を予定しています。

【お問い合わせ先】

パナソニック株式会社 全社CTO室 広報担当
Email : crdpress@ml.jp.panasonic.com

以上

プレスリリースの内容は発表時のものです。

商品の販売終了や、組織の変更等により、最新の情報と異なる場合がありますのでご了承ください。